

発議第 3 号

令和元年 6 月 21 日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

提出者 幕別町議会議員 野原 恵子

賛成者 幕別町議会議員 田口 廣之

賛成者 幕別町議会議員 東口 隆弘

賛成者 幕別町議会議員 千葉 幹雄

日米貿易協定交渉から日本の農業を守る意見書

上記の議案を、別紙のとおり会議規則第 14 条の規定により提出します。

日米貿易協定交渉から日本の農業を守る意見書

日米貿易協定交渉の初会合が4月に開催され、過去の経済連携協定の内容が最大限とする日米共同声明に沿って交渉することを確認し、早期妥結に向けた交渉を進めることで一致したとしています。

しかしながら、物品貿易協定（TAG）と強調していた交渉範囲は物品にとどまらず、電子取引などのデジタル貿易についても協議するとされ、また、米国側は、通貨安の防止を図るため、為替条項も取り扱うよう求めています。

一方、共同声明に沿って交渉するとしながらも、米国内では、農業分野での先行妥結を求める声とともに、TPPを上回る関税撤廃・削減や輸入枠拡大を求める業界団体からの圧力が高まっています。すでに、TPP11及び日EU・EPA協定発効によって牛肉や果樹など農産物が前年より輸入増加する状況下にあります。このまま米国の強硬な要求に屈すれば、日本の農業及び関連産業や地域経済・社会が甚大な影響を被ることになり、わが国の食糧主権を形骸化し、国内農業・農村の崩壊につながる危険性があります。自動車などの対米輸出のために、国民の命の源である自国の農産物を代償として差し出すことは断じて許されません。

世界的には、人口増加による食料不足や頻発する自然災害で食料供給が不安定になる可能性が高いとされる中、安全・安心な食料を安定的に国民に提供することが重要となっています。

よって、日米貿易協定交渉に当たっては、わが国の食糧主権及び食料安全保障が守られるよう、次の事項について強く要望します。

記

- 1 国民への安全で安心な食料を安定的に供給する観点から、わが国の食糧主権と食料安全保障を守ることを基本に、交渉内容の丁寧な情報提供を行い、国民合意がないまま交渉を拙速に妥結しないこと。
- 2 農業者の不安を払拭するため、国内の農業・農村をつぶしかねない米国の強硬な要求に屈することなく、重要農産物の関税削減・撤廃及び輸入枠拡大などは断じて受け入れないこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和元年6月21日

北海道中川郡幕別町議会

【提出先】

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、農林水産大臣、
経済再生担当大臣、内閣府特命担当大臣（経済財政政策）